

○表 真美 山上真衣子（京都女大文）

目的 テレビおよびテレビゲームは現代の子どもたちの生活に深く浸透し、生活時間、生活態度等に大きな影響を与えている。また、それらから発せられる性的、暴力的映像表現は、子どもの問題行動と結び付けられ、不安材料となっている。そこで本報告では、家庭での親の養育態度がテレビ視聴およびテレビゲーム使用特性に及ぼす影響、さらに、テレビ視聴およびテレビゲーム使用特性が子どもの心の成長に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

方法 1999年6月下旬から7月中旬に、近畿圏のN市立小学校2校、およびK市内の私立小学校1校において、4、5、6年生の児童429名を対象に自己作成の質問紙による調査をクラス単位の集合法を用いて行った。

結果 1) テレビへの依存度はかなり高く、毎日5時間以上見ると回答する子どもが4割近くいた。また約88%の子どもがテレビゲームを所有しており、1日の使用時間は、男子2.46時間、女子1.44時間であった。

2) 「きまり」を設けた規制を行っている家庭の子どもは、テレビ視聴およびテレビゲーム使用時間、依存度ともに低くなった。「小言」の多い家庭では逆に時間、依存度とも高くなっている。

3) テレビ視聴、テレビゲーム使用時間が長いと、他人を思いやる心をもつ割合が減少し、仮想現実と現実との混同が見られるなど、テレビ視聴およびテレビゲーム使用特性と子どもの心の成長との関連が認められた。